

バヌアツ便り No. 4



青年海外協力隊
細川 伸夫
職種：小学校教諭



野生豚捕獲終了

お久しぶりです、こんにちは。世界で一番幸せな国より第4号の便りです。日本でも有名なエロマンガ島に7月の下旬に、キャプテンクックが発見したというクックスベイという地域の小学校に算数の指導補助に行ってきました。バヌアツで4番目に大きな島で、大自然がほとんど手つかずのままとなっています。ここに開校してから5年目の小学校があり、多少の手助けになるならと考えることに決めました。

空港からボートで2時間弱のところにある学校は先生が全員ボランティアであり、教科書の類が一切ない小学校でした。教育省が未認可のまま年月が経ちましたが来年2012年より認可された小学校としてスタートする予定ということです。一番困ったのは打合せをしてもほとんど意味がなかったことです。先生方は自分の感覚だけで授業をおこない、校長の感覚だけで授業時間の増減がされていました。時間の概念がないこともそうですが、時間割がないため、ほとんどフランス語の授業で一日が終わるといようなことの



繰り返しだったようです。しかし、教員の方々はボランティアにもかかわらず勉強熱心な方々でした。自分の自己紹介まで真剣にメモをとられ、質問がいろいろあったのは重要なことだと認識しました。この子供たちはとにかくタフ(ラフ?)野生の豚を子供たちだけでハンティングをして豚を背中にくりつけ村に帰ってきます。やはり生活するのがハードであるため子供たちも鍛えられるのでしょうか?次にアクシデントが訪れたのは帰路の行程でした。誰も時間や距離を把握していないため、予定が立たないのです。地図と海

全校生徒

路(ボートでの乗船時間)を参考に出発したのが12時ちょうどでした。小学4年生の男の子(といっても年齢不詳、背丈は私よりも大きい)が道案内を務め、二人だけのゴールを目指しました。海をショートカットしたり、川を横切ったり野性味満載の旅となりました。ラッキーだったのはその子が強靱な体力の持ち主で自分の荷物(辞書や寝袋、参考書等、計10キロ)を何度も背負って助けてくれたことです。小休止を何度もとりながら無事に目的地に着きました。歩行距離約16Km、約4時間の旅でした。田沢湖一周の競歩大会(私は大曲工業高校出身)よりもきついアップダウンを克服して。しかしこのときはこれが最長のウォーキングだと思っていましたが、8月には8時間のウォーキングが自分に立ち塞がるのでした。残りの任期は4ヶ月。かなり健康になって日本に戻れそうです。最小の行動で最大の効果を発揮できないことはわかりつつも、体調管理に留意しながら残りの期間も楽しんで行きたいと思います。次回はよいよ最終号。東日本大震災、被災地の方々、復興は簡単な道のりではありませんが今こそ東北の底力を。東北には他の地域にない心の強いつながりがあります。まず、私は自分のなすべきものはなにかもう一度考え、必要としてくれる方のため活動します。



ある日の昼食